

## 新年度に向けて様々なことを

### 令和元年度 生態系保護地域巡視員会議(秋季)

令和元年度の夏山シーズンを終える11月16日(土)に、鶴岡市朝日中央コミュニティセンター(すまいる)において秋季の巡視員会議を開催しました。



会議は、巡視員4団体14名、環境省東北地方環境事務所国立公園課長、国有林野からは東北森林管理局計画課森林資源評価企画官、庄内森林管理署、置賜森林管理署、朝日庄内森林生態系保全センター職員の出席で開催されました。

会議に先立ち、朝日センター所長より「今シーズンも無事巡視活動が終了したことへの感謝と、来年度へ向けた意見交換をお願いしたい。」と挨拶がありました。

事務局より巡視員等による巡視活動結果、合同パトロール、看板整備についてと、報告事項としてスノーモービルの乗り入れ関係、人工林から天然林への誘導、マツノクロホシハバチ、オオハンゴンソウの除去について報告があり、質疑応答に入りました。

#### 挨拶する新林森林資源評価企画官

合同パトロールの結論として、今後登山道整備については、朝日連峰保全協議会へ議論の場を移すこととしました。

登山道での蜂刺されが数件発生し、新年度に向けてハチの注意喚起用に、表示テープの購入も検討されました。

天然林への移行については、本年度の実施個所や来年度以降の予定個所の見学を希望する声も出されました。



#### 会議風景

また、オオハンゴンソウの除去につきましては、巡視員にも声がけをいただき手伝いをしていただけると言う、心強いご提案もいただきました。

国立公園課長より、保全協議会による今年の保全作業の紹介と、台風19号等による登山道の崩壊確認などが話されました。

長時間に渡る会議でしたが最後に、石田生態系管理指導官から、「衰退し始めた合同パトロールの盛り上げと、オオハンゴンソウの除去に対する新しい取り組みを期待します。」との閉会の挨拶で終了となりました。



#### 環境省東北地方環境事務所国立公園課長